

# 緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.155

発行:平成 27 年 8 月 1 日



## 「神楽岡公園-夏の自然観察会」

～夏の園内を探索しよう～

とき 平成 27 年 8 月 9 日(日)

午後 1:30～3:30 定員各 20 名

講師 旭川みどり 21 の会 成田一芳さん

## 「温室で写真教室」(初級)

とき 平成 27 年 9 月 20 日(日)

午後 1:30～3:30 定員 20 名

講師 北海道写真協会旭川支部 馬場和美さん



## 講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の 20 日から)



## 「ハーブの寄せ植えとハーブティー」

～ハーブティーを楽しみながら～

とき 平成 27 年 8 月 30 日(日) ¥1,000

午後 1:30～3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター相談員



## 「ビオラと秋植え球根の寄せ植え」

とき 平成 27 年 9 月 27 日(日) ¥1,000

午後 1:30～3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター相談員

なやすみ

ちびっこ集まれ〜!

### 連続講座のお知らせ ☆9:30～11:30☆

「子どもと作る花の鉢植え」全3回コース

<日程・内容> 教材費 1,500円

8月 8日(土)第1回目 “鉢にお絵かき”

8月 12日(水)第2回目 “鉢カバーづくり”

8月 15日(土)第3回目 “肥料と土の話と土づくり”

“お花の話と花の植え込み”

<定員> 小学4年生以上と保護者 10組



### 連続講座のお知らせ 13:30～15:30

「美味しく育てる秋野菜づくり講座」

<日程・内容>

8月 22日(土)第2回目

「間引きと病害虫の予防」

9月 26日(土)第3回目

「収穫と保存方法」

※作業しやすい服装で受講してください。



## 展示会・その他のご案内

(初日は午後から、最終日は4時まで)



【展示会】「押し花展」

7月30日～8月30日



くつろぎカフェ

【休館日のお知らせ】

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～ 3月は毎週月曜日が休館日です。( " )

### ♪ くつろぎカフェ ♪

8月 27日～30日 午後 1 時～3 時

♥大好評のハーブティーの講座が

今年も 8 月に行われますよ～!!

講師:ハーブティーセラピスト 建部久美子さん

内容:ハーブの種類、効用、育て方...etc.

受講料:100円(茶葉代)



## 〈園芸の基礎知識〉

## 受粉による仕分け

ふうばいか すいばいか ちゅうばいか ちようばいか  
～風媒花、水媒花、虫媒花、鳥媒花～

多くの花は花びらを開いてから雄しべと雌しべが出会い受精して種子を作ります。雄しべの花粉が雌しべの柱頭の辿りつくためには、水や風、昆虫、鳥たちの力を頼りにします。

■**風媒花**: マツ、シラカンバやクリ林、トウモロコシ畑などを吹きぬける風に乗って運ばれてきた花粉たちはめざす花に辿りついて受粉し、種子を作る花を風媒花といいます。この花粉はふつう小さくて軽く、風に乗って遠くまで運ばれやすい形や構造をしています。この風媒花は仲間の雌しべに一つでも多く辿りつくようとして多量の花粉をつくっています。

■**水媒花**: 水辺や水中で花が開く植物があります。これらは、海の水や淡水などの流れによって運ばれてきた花粉によって受粉し、種子をつくる花を水媒花といいます。花粉が水面を移動し、雌しべに近づいて受粉して種子を作るものと、水中で移動し雌しべに水中で受粉して種子を作るものがあります。前者には、ミズハコベ、セキショウモなどがあり、後者には、キングヨモ、イバラモ、アマモなどたくさんあります。

■**虫媒花**: 多くの花は陽の光があたってから開花するものが多く、チョウたちが舞い踊るように花に止まるとは花の奥にある蜜を長い口先で満足そうに吸っては飛び去っていきます。これがチョウ媒花で、ニッコウキスゲ、ツツジ類、ハルジオン、タンポポ、ユリ、キクなどです。ハチ媒花のハチはめざしている花の近くで、その花の香りや蜜はどうかを確かめているようにしばらくの間飛び回ったあげく、ようやく選びぬいた花に着陸します。そして急に忙しそうに花の蜜をなめ、花粉を食べ終わると、サッとその花から飛び去って行きます。代表的なのがミツバチです。ハチたちを誘うため、花はいい香りを発散し、豊富な蜜を備え多量の花粉をつくります。その花粉の表面には粘液物質や突起物があり、ハチに付着しやすいようになっています。この他にカブトムシなどの甲虫媒花やガ媒花、アブ媒花など多くの虫媒花があります。



カラミザクラを訪花するニホンミツバチ

■**鳥媒花**: 鳥たちは木の実を食べるだけではなく、咲いている花にもよく飛んできます。サボテン、トケイソウ、パインナップル、ユーカリなどの花に口ばしや頭に花粉をつけた鳥たちがやってきて花粉を媒介します。このような花を鳥媒花といいます。この鳥媒花の花は日中に咲き、鳥たちからはすぐに目につきやすく燃えるような赤い色や鮮やかな黄色をしており、花びらを大きく広げています。また、臭覚があまり発達していない鳥たちを相手にしているためか、花の香りが弱いのも特徴です。また鳥媒花は蜜そのものをたくさんもっています。そして花の奥深くにある蜜腺と花にとってもっとも大切な子房(胚珠)の部分は鳥の鋭い口ばしの先で傷つけられないようにしっかりと保護されているのが鳥媒花の最大の特徴です。

(参考資料: Biglobe『花粉の旅の仲間』など)

## 緑の相談 Q&A (29)

オオデマリにこのような不思議な虫がついて葉を食害していました。何という虫でしょうか？

この白い紐のような物質は幼虫から出す蠟物質です。類似するのは、アゲハモドキ幼虫、ミツクリハバチ幼虫、ババシロアシマルハバチの幼虫です。アゲハモドキ幼虫の食草はミズキ、ヤマボウシなど。ミツクリハバチ幼虫の食草はハンノキ系。ババシロアシマルハバチ幼虫の食草はオオデマリやガマズミなどです。形態ではアゲハモドキの腹脚は4対以下、ハバチ類の腹脚は5対以上です。これらの特徴から、この昆虫はババシロアシマルハバチの幼虫と思われます。



# 植物の病害虫

## その26 「蛾」<sup>が</sup>マイマイガ、カシワマイマイ

### 1 加害される植物

リンゴ、ナシ、モモ、ウメ、サクラ、シラカバ、ヤナギ、カラマツ、カシワなどの葉を食べ、成長します。



マイマイガの幼虫



カシワマイマイの成虫

### 2 蛾の被害状況

ガ類の幼虫はイモムシ・シャクトリムシ・毛虫<sup>そうしゅう</sup>で総称され、草や樹木・野菜など植物を餌とする種が多く、また成虫も花の蜜・樹液・果汁を餌にする種がいるため、作物や庭木の園芸植物を加害することがあります。

### 3 生態

マイマイガとカシワマイマイは同じ仲間のガで、似たような生態<sup>せいたい</sup>をしています。

卵<sup>らんかい</sup>：縦3～5cm、横cm程度の髓<sup>ずい</sup>円形の褐色、表面は鱗毛<sup>りんもう</sup>でフェルト状に覆われています。

孵化<sup>ふか</sup>幼虫：5月頃孵化、卵<sup>らんかい</sup>状に集団(500～600匹)でいます。高い所に登り糸を吐いてぶら下がるので「ブランコケムシ」とも呼ばれています。風に乗って飛びます。

幼虫<sup>ふかご</sup>：孵化後、通常5回脱皮<sup>だっぴ</sup>し、6齢を経過します。最大で7cmになります。様々な樹種の葉(広葉樹が主体でカラマツ等針葉樹も含む)を食害し、森林害虫として有名です。

蛹<sup>さなぎ</sup>：幼虫は2か月ほどで発育を完了し、樹幹、物陰等で蛹<sup>さなぎ</sup>となります。蛹期間は10日間です。

成虫：8月ごろに発生します。生存日数は最大で10日間です。照明への飛来時間は薄暮～夜に入る頃が最多となります。日没直後の1時間ほどの間に飛翔または歩行移動をします。

産卵：8月中旬頃に行われます。雌は一般に交尾後に飛翔または歩行移動後12時間以内に産卵し、産卵すると飛翔しなくなります。産卵は数夜にわたり、日中は産卵を休止します。

雌成虫は通常、腹部内のすべての卵を一つの塊<sup>かたまり</sup>で産み、産卵しながら卵を鱗毛<sup>りんもう</sup>で覆います。

### 4 防除方法

卵<sup>らんかい</sup>対策：あまり硬くない先が平らなもの(例、ペットボトル)ではがす。高いところある卵<sup>らんかい</sup>はガンノズルなど高圧の水で洗い落とす。

孵化<sup>ふか</sup>幼虫対策(体長1cmまで)：ガムテープに貼り付けて取り除く、薬剤による防除。

幼虫対策：捕殺<sup>ほさつ</sup>(葉を切り取る、洗剤を入れた水に幼虫を入れる)します。

成虫対策：照明の消灯・交換、壁など建築物には家庭用殺虫剤による防除。

※皮膚の弱い方は、幼虫に触れるとかぶれることがあります。防除の際に成虫の鱗粉<sup>りんぷん</sup>が舞い上がり、目に入ったり、吸入してしまうことがあります。マスクやゴーグルを着用して下さい。

# ‘暑い夏に涼を呼ぶアサガオのカーテン’

ヒルガオ科 サツマイモ属 ヒマラヤ高原、熱帯～亜熱帯アジア原産 つる性一年生植物

アサガオは、小学校などで育てられた経験のある方も多く、馴染のある草花ではないかと思います。古くから日本で栽培されていますが、日本原産でなく熱帯アジアなどが原産で、日本へは奈良時代に中国から薬草として渡来しました。江戸時代に入ると観賞用植物として朝顔ブームが起こり、品種改良も盛んにおこなわれ、葉や花がユニークに変化した「変化アサガオ」が流行しました。明治に入ると愛好会も生まれ、「大輪アサガオ」の作出などが盛んになりました。現在は江戸時代の突然変異種をベースに交配を重ね新しい品種が作られています。また、最近では近縁種の「西洋アサガオ」も盛んに育てられています。北海道ではほとんど馴染がありませんが、東京近郊では江戸時代から暑い夏の風物詩として「朝顔市」が開かれ大いに賑わっています。最近では国が二酸化炭素削減と夏の節電対策として「グリーンカーテン」推奨事業に取り組んでおり、アサガオもその一つとして広く育てられています。汗がにじむ暑い夏にアサガオのカーテンの下で涼んでみてはいかがでしょうか。

## 《栽培のポイント》

### ■種まき

- ・〈市販種子〉硬実種子ですので、一晩水に浸けて播く
- ・〈自家採取〉ヤスリなどで殻の背中を少し削り、一晩水に浸けて播く
- ・コンテナに直まき又はポットまきし、覆土1cm程度。発芽温度は 20～25℃（早まきに注意）

### ■植付け(定植・用土・肥料・水やり)、仕立て方など

- ・ポット苗は本葉3～4枚で定植(地温 22～25℃が必要)
- ・用土は草花用土又は混合土(赤玉土6、腐葉土3、火山レキ1)
- ・肥料は元肥として緩効性肥料、追肥として1週間に1回程度薄めた液体肥料(花期は中止)
- ・水やりは生育初期には乾かし気味に与え、花期は乾かさないようにたっぷり
- ・鉢では「あんどん仕立て」、コンテナでは「カーテン仕立て」がポピュラーで本葉5～8枚で摘心
- ・花は一日花で翌日にはしぼみます。また、短日植物で夜間照明が当たらない場所



(参考資料: NHK 出版「趣味の園芸」ほか)

## 展示室の植物 (62)

**ゼラニウム** (和名: テンジクアオイ、学名: *Pelargonium hortorum*)  
フウロソウ科 ペラルゴニウム属

ゼラニウムは、以前にはゲラニウム(ゼラニウム)属に分類されていましたが、現在はペラルゴニウム属の一種に区分されています。非常に紛らわしいですが慣例的に園芸名を「ゼラニウム」の名で呼ばれています。一般にゼラニウム類を大きく分類すると「ゼラニウム」と「アイビーゼラニウム」、「ペラルゴニウム」、「匂いゼラニウム」に分類することができます。「ゼラニウム」をさらに細かく分類しますと「花ゼラニウム」と「変わり葉ゼラニウム」、「星咲きゼラニウム」に分けることができます。ゼラニウムは南アフリカ・ケープ地方原産のペラルゴニウム・インクイナンス(*P. inquinans*)とペラルゴニウム・ゾナレ(*P. zonale*)を親に交雑されて作出されました。ゼラニウムは乾燥に強く丈夫で、花は四季咲き性で生育適温(20℃前後)が確保できれば一年中咲き続けます。ゼラニウムの葉や茎には、触ると独特の匂いがあり、虫よけ効果があるといわれています。しかし、これを嫌う人も多くいますので、最近では匂いの少ない品種も多く出回っています。緑のセンターには「花ゼラニウム」のほか「変わり葉ゼラニウム」なども展示しています。



(参考資料: NHK 出版「よくわかる栽培 12 か月 ゼラニウム」ほか)